THIRD-PARTY COMMENT

第三者コメント

　NPO法人 CIO Lounge の理事長をしております矢島孝應です。　ダイハツ工業株式会社より「ダイハツの DX」の取り組みに対する「第三者コメント」のご依頼をいただきました。　私はパナソニック、三洋電機、ヤンマーの3つの製造会社で情報システム責任者をさせていただきました。現在は100名を超える日本のCIOクラスの方々と共に企業の、IT化 / デジタル化を加速するご支援を NPO 法人として推進しております。また、ウイングアーク1 st 株式会社、NTT ドコモソリューションズ株式会社、及び本年設立いたしました株式会社 IT-PMI で社外取締役を併せて担当させていただいております。

　ダイハツは、読者の皆様がご承知の通り、発動機の国産化から始まり、三輪車、軽自動車、コンパクトカーの分野で革新を続けてきた日本最古級の自動車メーカーです。よって企業としての DNA は発動機であり、機械的な自動車です。しかし、世界の自動車業界は大きく変化し、従来の自動車メーカーだけでなく、IT 企業やスマートフォンメーカーなど、異業種からの参入も進んでいます。私が先日上海を訪問した際には、繁華街のショールームでスマートフォンと自動車が並べて展示されている光景を目にしました。こうした変化は自動車業界に限らず、世界では業界の垣根を越えた新たな商品やサービスが次々と生まれ、お客様が求める価値も急速に変化しています。

　そうした環境下において、ダイハツが掲げている DX の取り組みは、ダイハツがこれからの社会並びにお客様からの信頼を得るために不可欠なものであることは明白です。今回ダイハツの DX に対する取り組みを拝見し、社内の効率化のみを追求したものではなく、「市場」や「お客様」を見据えた取り組みであること、そしてそれらを進めるのは、特定の人材や部門ではなく、社員全員で取り組んでいくと言う姿勢を示している点が素晴らしく評価できるものであると確信いたしました。ただ一方では、先に述べた様に世界は信じられないスピードで変化しております。ダイハツが今まで以上の速さとパワーで企業変革を進めていただけることを心より期待しております。

　最後にこのレポートを編集 / 発行に携わられた方々に敬意を表します。

CIO Lounge

矢島（やじま） 孝應（たかお）氏

1979 年松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）入社。三洋電機株式会社を経て 2013 年 1 月にヤンマー株式会社に入社。その間、アメリカ松下電器 5 年、松下電器系合弁会社取締役 3 年、三洋電機株式会社執行役員、関係会社社長 3 年を経験。ヤンマー株式会社入社後、執行役員ビジネスシステム部長就任。2018 年 6 月に取締役就任。2020 年 5 月退任し、NPO 法人 CIO Lounge 理事長を務める。現在は、NTT ドコモソリューションズ株式会社社外取締役、ウイングアーク 1st 株式会社社外取締役を兼任。

